

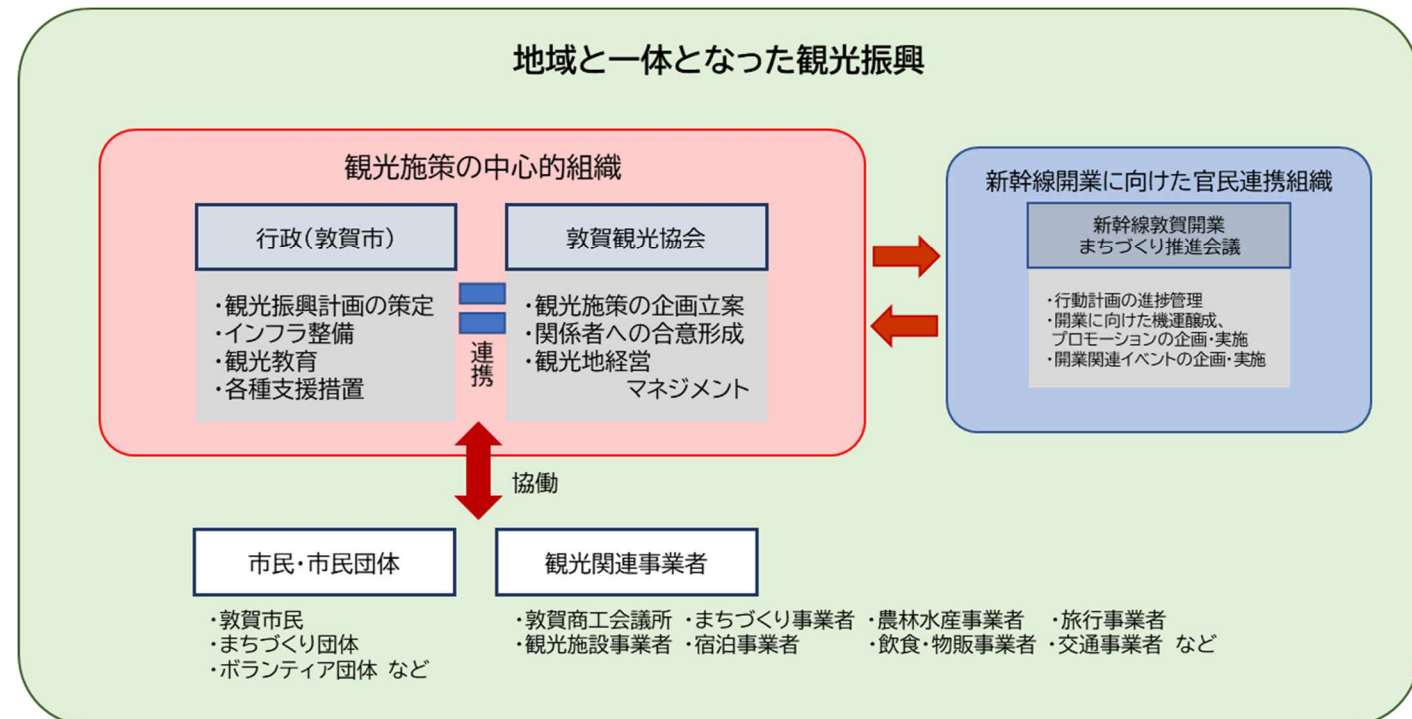
役割分担と推進体制

本計画を推進していくためには、市民やボランティア団体、観光事業者、観光施設、宿泊施設、その他専門団体がお互いに密に連携を図り進めていかなければなりません。そのために、それぞれが期待される役割を担うことが望まれます。

推進体制

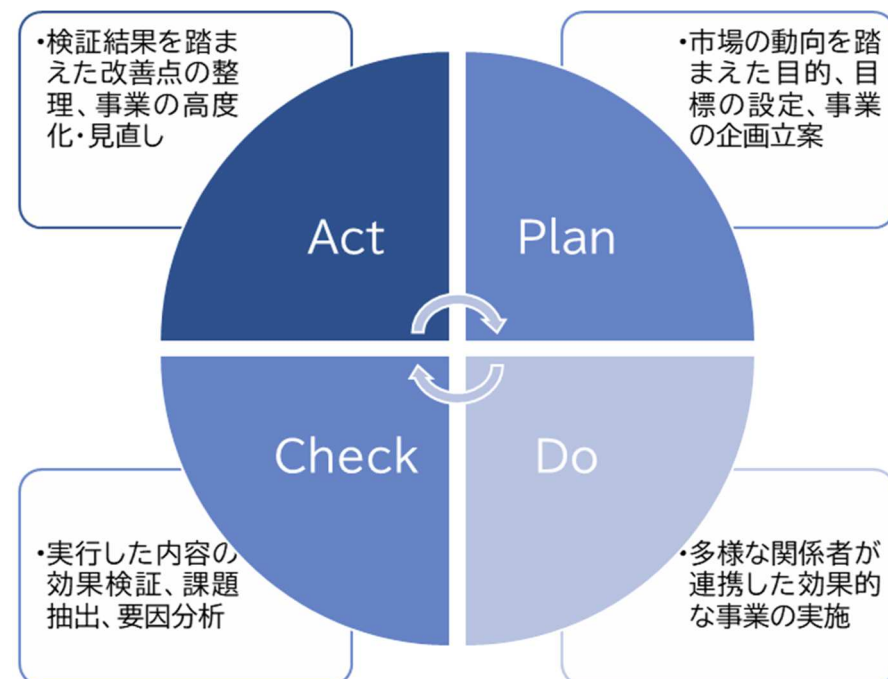
本計画の総合的かつ計画的な推進と進捗状況の確認等を行いながら各関係者と連携を図り、観光振興施策を推進していきます。

また、北陸新幹線敦賀開業に向けた施策については、新幹線敦賀開業まちづくり推進会議が進捗を管理する行動計画と整合を図りながら、進めていきます。



進捗評価

本計画で設定した施策や具体的な事業の実施にあたっては、事業の進捗管理を円滑に進める手法の1つであるPDCAサイクルを導入し、Plan(計画)⇒ Do(実行)⇒ Check(評価)⇒ Act(改善)の仮説・検証型プロセスを循環させることによって、取組みを継続的に改善していきます。



敦賀市 観光振興計画 概要版



令和5年3月策定

基本理念

令和2年度に策定された「第7次敦賀市総合計画」においては、北陸新幹線敦賀開業に向け、本市の主要産業である商業等の活性化、稼ぐ産業化を推進するとともに、人道の港をはじめとした地域資源を活かした施策を推進しています。観光分野においても、地域と人をつなぎ北陸新幹線敦賀開業の受け皿づくりを進めるとともに、広域的な観光圏の形成に取り組み、これまでも増して陸海交通の要衝としての立地特性を活かした、国内外をつなぐ交流拠点となる将来像を目指します。



敦賀駅西地区(TSURUGA POLT SQUARE「otta」)



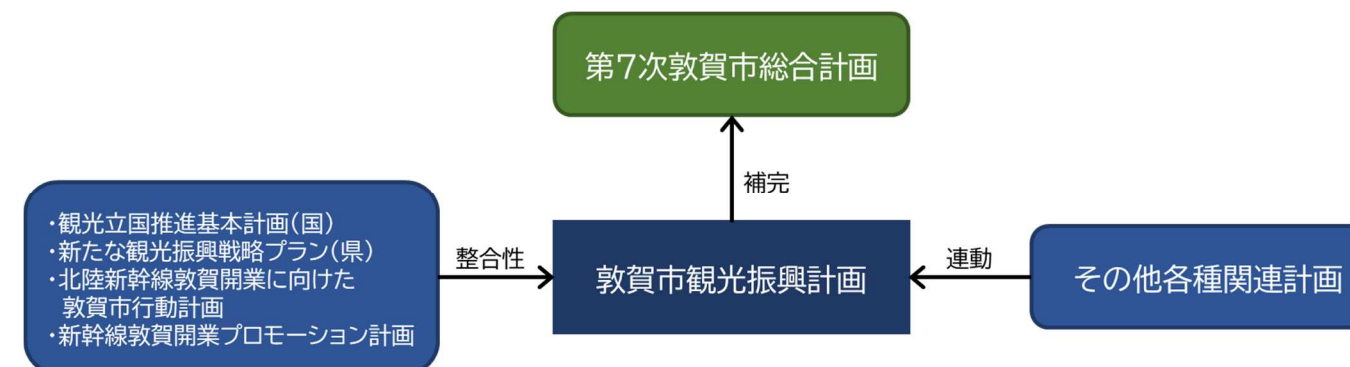
人道の港 敦賀ムゼウム

計画策定の趣旨・目的・期間

本計画は、北陸新幹線敦賀開業を本市の観光振興の転換期と捉え、「北陸新幹線開業に向けた敦賀市行動計画」を包括し、開業前後の令和5年度(2023年度)から令和7年度(2025年度)までの期間に絞った敦賀市観光振興計画とすることを目的としています。

計画の位置付け

本計画は、本市及び周辺地域が抱える観光に関する課題を踏まえつつ、国・県が示す観光に関する計画と整合性を図り、「第7次敦賀市総合計画」や「北陸新幹線敦賀開業に向けた敦賀市行動計画」等の方針に基づき、本市ならではの観光施策を総合的かつ戦略的に推進するための具体的な方策を示すものです。



課題

基本方針

基本計画

【多様な観光資源の活用と保全】

A 多様な観光資源の整備と活用、保全

「持続可能な観光」の実現に必要なテーマでもある建築文化遺産や生きた伝統文化、さらには伝統的な価値観を守るため、交通の要衝であった敦賀を物語る鉄道と港に関する資源の多い「敦賀港周辺エリア」、商業施設が多い「氣比神宮周辺エリア」、敦賀の玄関である「敦賀駅周辺エリア」の中心市街地や、名勝・史跡など観光拠点を中心とした整備を推進します。

また、「敦賀真鯛」や「敦賀ふぐ」などの海の幸、「東浦みかん」などの農産品といった敦賀ならではの特産品を活用し、敦賀を訪れたいと思えるような魅力的な商品づくりを推進します。

ハード面では、北陸新幹線の敦賀延伸に向け、敦賀市の玄関口となる敦賀駅周辺中心に、敦賀市内を快適に周遊して楽しめるよう、バリアフリー化や二次交通が充実した環境づくりを進めます。

【持続可能な観光推進】

【受入体制の充実】

B の充実

B ホスピタリティ

来訪者に敦賀の魅力を伝えるためには、市民一人ひとりが敦賀の魅力を再認識し、誇りをもって紹介できることが大切です。ボランティアガイドの方をはじめ、民間企業、NPO、大学生などの若者など多様な立場の市民が、スキルと心(＝おもてなし意識)を磨くことで、来訪者の受入体制づくりを推進します。

また、新型コロナウイルス等の感染症対策を十分に行い、観光客が安心して来訪できる環境づくりを進めます。

【インバウンド等の誘客推進】

【観光都市としてのイメージの定着】

C マーケティング戦略の推進

敦賀駅が北陸新幹線の当面の始発駅・終着駅となることで、多くの人が「敦賀」の名称を目にすることになり、敦賀を知ってもらう最大の好機となります。

そのため、敦賀市民の視点、来訪者の視点から敦賀の魅力を分析しマーケティング戦略を立て、敦賀を訪れてもらうためのプロモーション活動を行います。

【情報発信・マーケティングの強化】

【広域観光と観光振興推進体制の充実】

D の強化

D 観光振興の推進体制

観光事業推進の中心となる(社)敦賀観光協会の運営体制を強化していくとともに、行政と民間が協働で新幹線開業に向けた取り組みを推進できるよう、官民連携による組織体制強化を推進します。

また、敦賀駅が北陸新幹線の当面の終着駅・始発駅となることで、嶺南地域だけでなく、周辺地域へアクセスするための重要な拠点となることから、近隣地域との連携を図りながら、観光PRやインバウンド向けのプロモーション活動を推進します。

併せて、2017年の「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 〰北前船寄港地・船主集落〰」と2020年の「海を越えた鉄道 〰世界へつながる 鉄道のキセキ〰」の日本遺産ストーリーを活用し、構成市町村と連携し、一体的かつ広域的な観光振興による地域活性化に貢献していきます。

A-1 市街地及び観光拠点の整備
敦賀市民が持ち続けてきた心である“人道”、広域交流遺産である“鉄道”など歴史的資源の保全と市街地整備による新たな本市の顔を観光拠点として磨き上げていきます。

A-2 敦賀らしい特産品・土産品の研究・開発・販路拡大
本市の地場産品等を活用した「敦賀ブランド」づくりを行い、これに沿った新たな商品やメニューの開発により、話題性の創出と稼げる観光の構築を図ります。

A-3 玄関口としての駅周辺整備
北陸新幹線の敦賀延伸に向け、敦賀市の玄関口となる敦賀駅周辺を市民や来訪者にとって魅力ある整備を積極的に行います。

A-4 来訪者が快適に過ごすための環境整備
来訪者がストレスなく敦賀市を観光できるよう、キャッシュレス化、バス利便性向上等の受入環境の整備を推進します。

A-5 市内を巡る二次交通の整備
敦賀市の玄関口となるJR敦賀駅から観光資源が集まる金ヶ崎周辺等への観光二次交通の利便性向上を図ります。

A-6 教育旅行・撮影などの誘致
他の地域にないコンテンツの提供や教育旅行の誘致により、国内外の新規旅行者を受け入れていくとともに、敦賀市を体感できるコンテンツの提供等により、リピーター増加を目指します。

B-1 敦賀市民のおもてなし意識向上
敦賀市の観光ボランティアガイドなどを育成し、活動してもらうことで、歴史コンテンツの魅力をさらに掘り下げたガイドを実現し、観光客の満足度を高めていきます。

B-2 インバウンドへの対応
訪日外国人観光客の受け入れ体制の充実に向け、外国人周遊コース開発や看板・施設などでのユニバーサルデザイン化の推進や観光・防災情報の多言語発信、市民や企業の多言語化によるおもてなしの普及に努めます。

B-3 誰もが楽しめる魅力的なイベントやまつりの開催
敦賀市の中心市街地において市民や来訪者など誰もが楽しめるイベントの開催、イベント開催支援など行います。

C-1 来訪者への敦賀の魅力調査
敦賀市の観光を中心とした来訪者のニーズを把握するため、アンケート等による意識調査や各種データ等の継続的な収集・分析データを活かしたPDCAを展開することで、その時々にはふさわしい観光地づくりの基盤としていきます。

C-2 敦賀の魅力の再認識
敦賀市の魅力を知ってもらうためのプロモーション、イベント開催、商談会への参加や多言語での観光パンフレット、ホームページ、デジタルサイネージを活用した情報発信のほか、Facebook、Twitter、インスタグラム、TikTokなどのSNSによる情報発信に取り組みます。

C-3 多様なメディアを活用した敦賀情報の発信
敦賀市に来て初めて知ることができる穴場観光、体験型ツアー、食事処ガイドマップなどを充実するとともに、ホテル・旅館の受け入れ環境を整備し、快適に敦賀を楽しめる環境づくりを行います。

C-4 デスティネーションキャンペーン、大阪・関西万博を契機としたプロモーションの推進
敦賀市が北陸新幹線の当面の始発・終着駅となるという、知ってもらう最大の好機を生かし、本市の魅力を分析したマーケティング戦略を立てるとともに、デスティネーションキャンペーン、大阪・関西万博のタイミングと合わせ、連携したプログラムを展開します。

D-1 広域連携の推進
広域的な観光圏・経済圏を実現するため、周辺地域等との交流や物流の円滑化につながる交通網ネットワークの強靱化、広域観光アプリの構築等に取り組みます。

D-2 民間と行政の連携体制強化
行政だけでなく、関係機関・団体などとの連携や役割分担も見据えつつ、敦賀市の観光情報を効果的に届ける仕組みや観光活性化を担う組織体制を強化します。